

平成 22・23・24 年度京都府小学校教育研究会 図画工作部 研究協力校
平成 21・22・23 年度京田辺市教育委員会指定「キ・ラ・ラげんきっ子教育実践校」

研究実践発表会

研究紀要

研究主題

豊かな感性・つくりだす喜び・確かな学び
～形や色の特徴をとらえ、自らのイメージを表現する児童の育成～



平成 24 年 2 月 2 日 (木)

京田辺市立普賢寺小学校

は じ め に

21世紀の10余年が経過した知識基盤社会と言われる変化の激しい社会で、子どもたちには確かな学力、豊かな人間性、健やかな体の知・徳・体をバランスよく育てること、つまり「生きる力」の育成が求められています。

こうした中で、本校は、平成21年度から京田辺市教育委員会の「キ・ラ・ラげんきっ子教育実践校」の指定を受け、さらに平成22年度から3年間の京都府小学校教育研究会図画工作部「研究協力校」として、研究主題を「豊かな感性・つくりだす喜び・確かな学び ～色や形の特徴をとらえ、自らのイメージを表現する児童の育成～」に設定し、研究を進めてまいりました。

学習指導要領の図画工作科の目標の中で、「感性を働かせながら」が新たに加えられ、「基礎的な能力を育て」が「基礎的な能力を培い」になりました。「感性」を働かせるのは子ども自身であり、子どもの感じ方を重視しながらつくりだす喜びを味わうようにすることがより明らかに示され、「能力を培い」とは、ここでいう能力が、育てて身につけさせるものというより、子ども自身にある資質を子ども自身が自己との対話を重ね、多様な関係の中で活動することによって伸ばすように、励ますという方向性を示すため、「培い」には教師の励ましの姿勢の意味合いが強く込められています。

私たちは、図画工作科の授業を通して育てる力は、「造形表現活動の楽しさを感じる力」、「自分らしい表現を考えたり工夫したりする力」、「色や形、方法や材料について知り、鑑賞したり、描いたりつくる力」、「協力して作ったり、展示したり発表したりする力」であると理解し、授業実践を重ねました。

その結果、子どもたちが楽しそうに活動する姿や、集中して自分と向き合い工夫しようとする姿、友達の見方や感じ方に刺激を受けながら自分の思いを膨らませていこうとする姿が見られるようになりました。私たちも、子どもの作品の色や形にはその子にとっての意味があることが、より理解できるようになり、「作品ができたときは、自分ができたとき」といわれるように、作品制作を通して子どもは自分自身を表現しているということがより実感でき、図画工作科の持つおもしろさやすごさに気付く毎日です。

このように、ようやく研究実践が進み、日々の学習活動や生活の中に研究が生かされる姿が見え始めてきたところですが、課題も山積しています。皆様方からご指導、ご助言を賜り、研究の充実を図ってまいりたいと考えています。

後になりましたが、研究を進めるにあたり、京都教育大学教授 村田利裕先生、京都教育大学非常勤講師 蘆田照代先生、京都府総合教育センター北部研修所研究主事兼指導主事 高橋淳夫先生には何度もご来校いただき、ご指導、ご助言を賜りました。心より感謝申し上げます。また、研究活動全般にご支援をいただきました京田辺市教育委員会並びに綴喜地方小学校教育研究会図画工作部会をはじめ、多くの皆様方にお礼を申し上げますとともに、今後ともなお一層のご教示を賜りますようお願い申し上げます。

平成24年2月2日

京田辺市立普賢寺小学校
校長 岡本 新一

目 次

はじめに

I 研究の概要	1
1 研究主題	1
2 主題設定の理由	1
3 研究構想	3
4 研究体制	4
5 各部の研究計画	4
II 研究内容	5
1 研修計画部	5
2 環境充実部	6
3 授業研究部	7
III 研究を通して	10
1 研究授業を通して気付いたこと	10
2 教師の意識について	10
3 児童の意識について	10

公開授業指導案（2年・6年）

おわりに

I 研究の概要

1 研究主題

豊かな感性・つくりだす喜び・確かな学び
～形や色の特徴をとらえ、自らのイメージを表現する児童の育成～

2 主題設定の理由

(1) 児童の実態 〈図画工作意識調査から〉

児童のほとんどが図画工作科の時間は「楽しい」と考えていた。その理由を尋ねると、「工夫してものを作れるから」、「考えたことを実際に作ってみられるから」、「空想して作れるから」と答えている。このことから、工作は好きであることが分かった。自分でイメージをふくらませ、作品に仕上げていくことそのものを楽しんでいる。

2名が「どちらかと言えば楽しくない」と感じていた。その理由に、「絵が苦手である」と答えていた。想像して描くことに苦心している。

さらに、今までの授業の印象を聞いてみると、低学年では造形遊び、高学年では写生や版画、クラフトなどが印象に残っていると答えている。学年が上がるにつれ、じっくり構想を立て、時間をかけて丁寧に仕上げた経験を、楽しいと感じているようだ。

また、身の回りの自然や生活の中で、美しいなあと感じたことをきいてみると、景色や自然現象から、見えることだけでなく音や匂いにも美しさを感じると答えている。

次に、遊びや生活の中で、どんな道具を、どれぐらいの児童が経験しているのか調査してみると、はさみやカッターナイフについては、多くの児童が経験していることが分かった。また、学年が上がるにつれて、使う用具や材料の種類が増えていた。金槌や釘、のこぎり、糸や針などは、図画工作科の授業や夏休みの作品制作、「ふるさと体験学習」の活動などで経験していることも分かった。

素直な気持ちや思いやりの心を持って育っているが、思ってもなかなか声に出せない、きちんと伝えることが苦手という本校の児童にとって、好きな図画工作科の活動で、集中力や表現力、伝える力、豊かな情操を養うことは、大変意味のあることであり、「自ら学び考える子」の育成につながる。また、培った力はこれからの生活の中に生かされるであろう。

(2) 図画工作科の指導の現状から

子どもが、「先生これでいいですか」と何度も何度も描いては了解を得にくる。その作品に、「ここは、もう少しこうしたら」などと指導する。教師のイメージにかなったときを、作品の「完成」としていないか。

このようなことから、子どもが「自分のイメージをもつ」ことや、「ゴール（作品の仕上がり）は自分で決める」ことを大切にする指導を考えた。

イメージを広げるために、遊びで技法を楽しむ、学習活動の場の設定を工夫する、友だちの作品をみる（目で見ると、心でみる・感じる）、鑑賞を意図的に仕組むなど、図画工作科の授業改善を図っていきたい。

また、表現活動や鑑賞活動において、感じ取ったことを話す・聞く・話し合うなどの活動を通して、言語活動の充実を大事にしたいと考えた。

(3) 学習指導要領の改訂の視点から

平成23年度からの新学習指導要領実施を受けて、図画工作科の目標などを踏まえ、改定のキーワードとなる「感性」、「喜び」、「能力」を意識して主題を設定した。

教育課程改善ハンドブック（京都府教育委員会）より

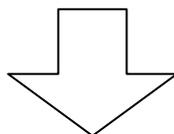
表現及び鑑賞の活動を通して、

① (児童が)感性を働かせること (今回の改訂で追加)

② (児童が)つくりだす喜びを味わうようにすること →

③ (児童の)造形的な創造活動の基礎的な能力を培うこと

豊かな情操を養う。



活動を通して、「

感性

喜び

能力

を」がキーワード

※1

※2

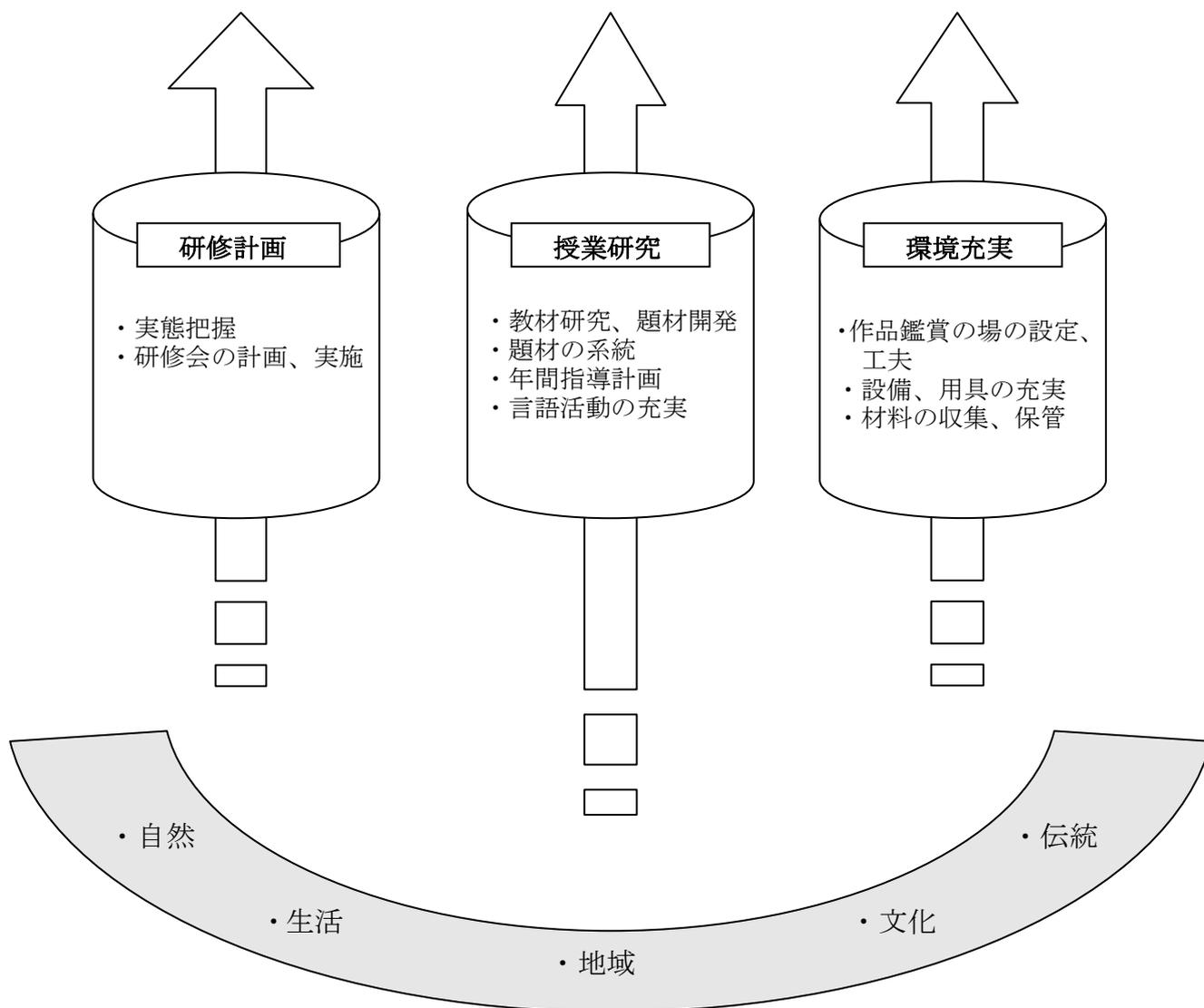
※1 「感性」…児童の感覚や感じ方、表現の思いなど（対象を能動的に感じ取る心の働き）

※2 「能力」…発想や構想の能力、創造的な技能、鑑賞の能力

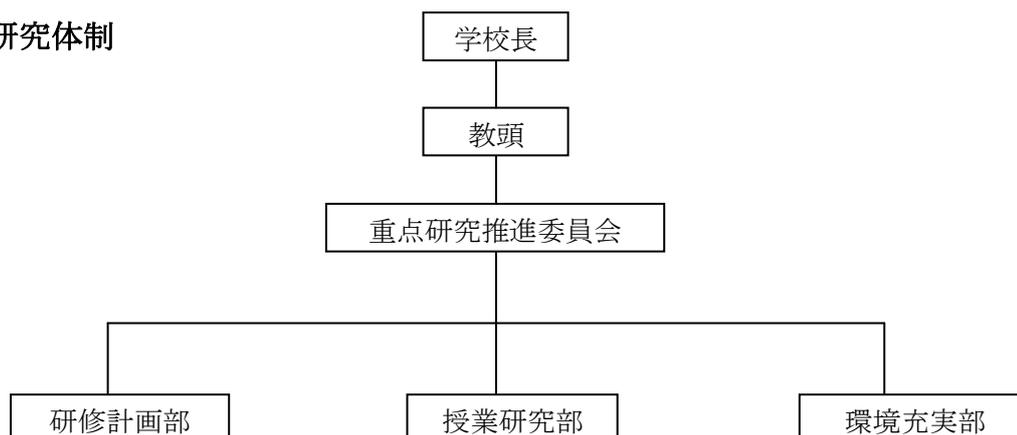
3 研究構想

豊かな感性・つくりだす喜び・確かな学び

～形や色の特徴をとらえ、自らのイメージを表現する児童の育成～



4 研究体制



5 各部の研究計画

月	研修計画部	授業研究部	環境充実部
4	本年度の計画作成	本年度の計画作成	本年度の計画作成
5		年間指導計画の作成 系統表の作成	季節の掲示 「あじさいの花」
6	授業研への講師招聘	2・5・6年生の授業研・事前研及び事後研	
7	京都国立近代美術館 で研修（鑑賞教育について）	4年生の事前研	
8	夏季校内研への講師 招聘	図工ノートの交流	環境整備 廊下の掲示板増設
9	授業研への講師招聘	4年生の授業研・事後研	季節の掲示 「ゴーヤのカーテン」
10	授業研への講師招聘 お話の絵指導者講座 参加	1年生の授業研（府小研図画工作部 支部長会への公開授業）・事前研及び 事後研	
11	授業研への講師招聘	3年生の授業研・事前研及び事後研	季節の掲示「もみじ」
12		キ・ラ・ラ発表、府小研中間発表に 向けた低・高別事前研	
1		2年6年キ・ラ・ラ発表、中間発表 に向けた全体事前研	季節の掲示「雪の結晶」 環境整備
2	中間発表における授 業研への講師招聘	キ・ラ・ラ発表及び府小研中間発表	
3	研究のまとめ	研究のまとめ	季節の掲示「スイセンの花」、 研究まとめ

II 研究内容

1 研修計画部

(1) 目標

- ・研究を通して出てきた課題を整理し、課題解決に向けて研修を計画し実施する。

(2) 取組内容

月	内 容
6	2・5・6年生の授業研 指導・助言者招聘 京都府総合教育センター研究主事兼指導主事 高橋淳夫氏
7	京都国立近代美術館で研修 学芸課長 山野英嗣氏
8	夏季校内研 ・ノートルダム女子大准教授 藤本陽三氏 ・京都教育大学教授 村田利裕氏 ・京都府総合教育センター研究主事兼指導主事 高橋淳夫氏
9	4年生の授業研 指導・助言 高橋淳夫氏
10	1年生の授業研 指導・助言 高橋淳夫氏、お話の絵指導者講座参加
11	3年生の授業研 指導・助言 高橋淳夫氏
2	中間発表の指導助言者 村田利裕氏・高橋淳夫氏
3	まとめ



夏季校内研
「図工工作科で育たい子どもの鑑賞・能力
鑑賞教育の指導から」



夏季校内研
「図工工作科で育てる力」

(3) 成果

- ・全ての授業研へ講師を招聘することにより、事後研の充実を図ることができた。
- ・鑑賞教育に焦点をあてた研修ができた。
- ・研究や授業実践の到達点や方向性を整理し、課題を焦点化することができた。

(4) 課題

- ・指導力向上につながる実技研修を計画する必要がある。
- ・研修内容の共有化を図る必要がある。

(5) 方向性

- ・指導力の向上を図る実技研修を実施していく。
- ・研修内容のまとめを作成し、研修後も確認・共有できるようにしていく。

2 環境充実部

(1) 目標

- ・廊下などの掲示物や掲示の仕方を工夫し、他学年の作品を鑑賞できる環境を作る。
- ・表現活動を通して、季節を感じるような環境づくりをめざす。

(2) 取組内容

- ・学年掲示板や教室前の廊下の掲示板の充実
- ・季節の掲示板の計画

5・6月	あじさいの花
9・10月	ゴーヤのカーテン
11・12月	かえで、イチョウの紅葉
1・2月	雪の結晶
3月	スイセンの花



あじさいの花



ゴーヤのカーテン



紅葉

(3) 成果

- ・各教室前に児童作品の掲示板を設置したことにより、他学年の作品を鑑賞する機会ができ、作品のよいところや工夫しているところなどを見つける力がついてきた。また題材へのあこがれを持ち、造形意欲を高めることができた。
- ・季節感を味わえる掲示板を全校児童で作成することを通して、色作りや色の組み合わせの学習ができた。また、季節の掲示板を日常的に目にすることで季節の変化を意識できた。
- ・季節を感じられる環境づくりを通して、次の季節への造形意欲を感じる児童の言動が表れてきた。

(4) 課題

- ・用具類の点検、材料ボックスの整理、壁面掲示の工夫などを行い、図工室を使いやすいように整備する。
- ・工作や立体の児童作品を展示する場所を設定し、他学年の作品を鑑賞する機会を増やし、造形意欲を高める工夫が必要である。

(5) 方向性

- ・季節の掲示板については、児童が内容を決められるように支援すると共に、学年ごとのねらいを明確にして、引き続き実施していく。
- ・作品の展示場所の工夫、図工室の計画的な整備を行う。

3 授業研究部

(1) 目標

- ・様々な題材で授業研究に取り組み、ねらいを明確にした授業について研究を深める。

(2) 取組内容

<ul style="list-style-type: none"> ・絵に表す活動や鑑賞の授業研の実施 ・図工ノートの交流 ・普賢寺小学校版年間指導計画の作成 	
4月	本年度の計画作成
5月	年間指導計画の作成、系統表の作成
6月	2・5・6年生の授業研、事前研及び事後研
7月	4年生の事前研
8月	図工ノートの交流
9月	4年生の授業研、事後研
10月	1年生授業研（府小研図画工作部支部長会に公開）、事前研及び事後研
11月	3年生の授業研、事前研及び事後研
12月	キ・ラ・ラ発表及び府小研中間発表に向けた低・高別事前研
1月	2年生・6年生 キ・ラ・ラ発表及び中間発表に向けた全体事前研
2月	キ・ラ・ラ発表及び府小研中間発表
3月	研究のまとめ

本年度『学年による研究授業の題材一覧』

学年	題材名	場所	研究授業実施日
1	かげをうつして 鑑賞	教室	10月26日
2	とうめいくんのだいへんしん 工作	教室	6月29日
3	あのときをわすれない 絵	教室	11月16日
4	これも顔に見えるよ 鑑賞	教室	9月28日
5	タワーをたてよう 立体	図工室	6月15日
6	墨から感じる形や色 絵	図工室	6月22日



1年 グループで鑑賞



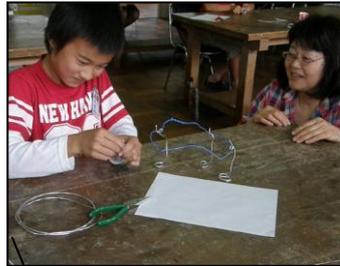
2年 作品紹介カードを作成



3年 効果的な画材の選択



4年 お互いの作品を鑑賞



5年 針金でタワーを作成



6年 墨の濃淡を活かした表現

(3) 成果

- ・研究授業としては、昨年度実施できていなかった絵に表す活動や鑑賞の内容についても授業研を行うことができ、幅広い内容で教材研究を深めることができた。
- ・全学年で研究授業を行うことを通して、教師全員がすべての児童の学力や生活実態について把握することができ、小規模校の強みを生かした学習指導や生徒指導につなげることができた。
- ・研究授業を重ねることで、「子どものイメージを広げる」をキーワードにした、題材ごとの核となるねらいの明確化や、学習意欲を向上させる効果的な「試しの活動」の工夫、言語活動の必要性など、授業改善の方向性が焦点化されてきた。

(4) 課題

- ・児童が自分の考えを深めたり、お互いに考えたことを交流したりする力を高めるために、言語活動の充実をさらに図る必要がある。
- ・引き続き、その題材の核となるねらいの見極めや、ねらいを達成するための手立ての工夫について、研究を深めていく必要がある。
- ・児童の活動の様子や考えていることの把握など、学習評価の進め方について研究する必要がある。
- ・あわせて、児童が学習したことを蓄積していくための、「図工ノート」の活用や充実について研究する必要がある。

(5) 方向性

- ・扱う題材を調整して、全学年による研究授業を継続し、幅広い内容から題材構想や指導の工夫、学習の過程での評価などについて研究を深める。
- ・日常的に、児童の思考を深めるための言語活動を意識的に取り入れる。
- ・各学年で取り組んでいる「図工ノート」を交流し、充実を図る。

京田辺市立普賢寺小学校

年間指導計画一覧表

平成23年度

	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	指導時数
1年	かんじたことを ①【オリエンテーショ ン】 かたちやいろを たのしもう①【オ 】 ともだちを つくろう②【絵 】	すきなもの なあに②【絵 】 みてみていっばい つくったよ②【立 体】 すなやつちどなか よし② 【造形遊 び】	はこのなかま たち④【立体 】 おつてたてて ゆめのまち④ 【工作 】	みんななかざら う④【工作 】 みんぱうの なかまたち⑤ 【工作 】	夏休み作品展① 【鑑賞】 かけをうつして① 【鑑賞】 プレゼントをどうぞ ⑥【工作 】	おはなさい き⑥【絵 】 キラキラシャボ ンで⑧【造形遊 び、絵、鑑賞】	おさんぽトコトコ ④【工作 】 かんじたこと、 おもったこと⑥ 【絵 】	なにになるかな ②【遊び 】 どうぶつさん たいすき② 【立体 】	どうぶつさんだ いすき①【立体 】 ココロゆらゆら⑥ 【工作 】	かたちからうまれ たよ⑥【絵 】 ありがとう6年生② 【工作 】	図工展鑑賞① 【鑑賞】 いろいろベッタン ②【遊び 】	全68h 1学期(22h) 2学期(28h) 3学期(18h)
月別時数	4h	6h	8h	4h	6h	8h	10h	4h	7h	8h	3h	
2年	かたちやいろをたの しもう②【オリエンテー ション】 ぬのであそぼう④【造 形遊び 】	ぼうしをかぶって ③【工作 】 ほかにあそびで③ 【造形遊び、絵 】	ひみつのグアナコ ③【立体 】 ふしぎなたまご④ 【絵 】	くしいぼうの なかまたち⑤ 【工作 】	ともだちの作品① 【鑑賞】 いろいろそめてみ よう③ 【造形遊び、絵 】	キラキラシャボ ンで⑧【造形遊 び、絵、鑑賞】	うつしてみつけて ⑥【造形遊び、絵 】	ひかりのプレゼ ント⑥【工作 】	ひかりのプレゼ ント⑥【工作 】	まどをひらいて⑤ 【工作 】 ゆらゆらキラキラ⑤ 【工作 】	つくってあそんで ⑥【工作 】	全70h 1学期(24h) 2学期(28h) 3学期(18h)
月別時数	6h	7h	8h	5h	4h	8h	10h	6h	2h	10h	6h	
3年	大すき自分の線と色 ③【絵 】 楽しむことがあ つたら⑤【絵 】 楽しくつかおう② 【工作 】	楽しいクルクル風 パワ④【工作 】	楽しくつかおう② 【工作 】 絵と言葉で表そう ⑥【絵 】	ざいりょうからひ らめき④【絵 】	作品展鑑賞① 【鑑賞】 光を通して②【造 形遊び 】 ガラスびんのへん しん②【立体 】	トントンサクラク 木の名人④ 【工作 】 ものがたりのせ かい①【絵 】	アートたんけんた い①【鑑賞】 自然からのおくり もの②【造形遊 び】	クムクムックス② 【造形遊び 】 クムクムックス①【造 形遊び 】	クムクムックス② 【造形遊び 】	はんをつかって② 【絵 】 やさしいモン スター②【立 体】 図工展鑑賞① 【鑑賞】	全60h 1学期(20h) 2学期(22h) 3学期(18h)	
月別時数	3h	7h	6h	4h	5h	5h	6h	6h	6h	7h	5h	
4年	ちがいをとめて、形 や色を楽しもう① 【オリエンテーショ ン】 すてきなペーパー ショップ③【絵 】	ぬのでかざらう むすんでかざら う④【造形遊 び】 感じたことを伝え たい④【絵 】	タワーをたてよう ④【立体 】 風が見えたら③【遊 】	ぬのにえがいた ら④【絵 】	作品展鑑賞① 【鑑賞】 これも顔に見える よ④【鑑賞】	ドリムワール ド⑦【絵 】	べんりなマイボッ クス⑥【工作 】 とび出すマッ シーン③【工 作 】	ゆめの世界の ゆめの家④ 【立体 】	ねん土のひもから ②【立 体】 ほってすって⑥ 【絵 】	切って切って木の 世界⑥【工作 】	つないでいくと 木で②【造形遊 び 】 図工展鑑賞① 【鑑賞】	全60h 1学期(18h) 2学期(25h) 3学期(17h)
月別時数	4h	4h	6h	4h	5h	7h	6h	7h	8h	6h	3h	
5年	心を通わせて 形や色を楽しもう① 【オリエンテーショ ン】 風が見えたら③【遊 】	感じたことを伝え たい④【絵 】 板から何が ⑥【工作 】	タワーをたてよう ④【立体 】 かたまつた形 ④【立 体】	楽しく美しく伝え よう④【工作 】	作品展鑑賞① 【鑑賞】 え？名前で見える ④【鑑賞】	想ぞうのつばさ を広げて⑥【絵 】	アニメーションを つくろう④【絵 】 板をきりぬいて② 【工作 】	板をきりぬいて ④【工 作 】 不思議な絵② 【鑑賞】	使って楽しい焼き物 ③【工作】(ねん土の 板から)と関連付けて	彫り重ねて表そう ⑥【絵 】 アート・レポーター になって②【鑑 賞】	図工展鑑賞① 【鑑賞】 わたしはデザイ ナー12さいの力 で⑤【工 作】	全50h 1学期(16h) 2学期(20h) 3学期(14h)
月別時数	4h	4h	4h	4h	4h	6h	6h	4h	5h	6h	3h	
6年	伝え合っ て①【オリエンテー ション】 身近な環境で ③【造形遊び 】	板から何が ⑥【工作 】 光のハーモニ ②【造形遊 び】	光のハーモニ ②【造形遊 び】 表し方をくふうし て ⑧【絵 】	楽しく美しく伝え よう④【工作 】	作品展鑑賞① 【鑑賞】 え？名前で見える ④【鑑賞】	想ぞうのつばさ を広げて⑥【絵 】	アニメーションを つくろう④【絵 】 板をきりぬいて② 【工作 】	板をきりぬいて ④【工 作 】 不思議な絵② 【鑑賞】	使って楽しい焼き物 ③【工作】(ねん土の 板から)と関連付けて	彫り重ねて表そう ⑥【絵 】 わたしはデザイ ナー12さいの力 で⑤【工 作】	図工展鑑賞① 【鑑賞】 わたしはデザイ ナー12さいの力 で⑤【工 作】	全50h 1学期(16h) 2学期(20h) 3学期(14h)
月別時数	2h	6h	6h	2h	4h	6h	6h	4h	4h	6h	4h	

Ⅲ 研究を通して（成果と課題に代えて ～校内研での発言や感想より～）

1 【研究授業を通して気付いたこと】

- ・題材名は、「やってみたいなあ」というワクワク感を持たせることが効果的だった。
- ・画用紙をつないで描く、輪郭を描かずに形をとらえるなど、教師自身が自由な発想で活動を提案していくことで、児童の発想を広げることができた。
- ・児童がイメージを持てなかったり、発想が広がらなかったりしたときに、会話をするのが有効だった。
- ・制作途中の作品を掲示したり、途中で鑑賞の時間を持つことが、児童が自分の作品の発想を広げたり、構想を深めたりする貴重な時間をつくることにつながった。
- ・表現意図を発言や作品カードで伝えたり、児童が好きな方向や位置に掲示するなど、見せる工夫をして鑑賞することが、児童の学習意欲を高めることにつながった。
- ・経験の少ない用具や技能を必要とする題材では、楽しく練習する活動や試しにやってみる活動を事前に行うことが、「やってみたい」という意欲を高めたり、ねらいとする技能を生かした発想を広げたりすることに非常に有効で、大事なことであった。
- ・「何を意識して自分は描いたか」ということが、友達の作品を鑑賞する視点にもなる。表現活動で大切にしたい視点は、その作品を鑑賞するときの視点とリンクしている。

2 【教師の意識について】

- ・研究で多くの発見があり、授業が楽しくなってきた。
- ・評価は、仕上がった作品だけで行うのではなく、「ぼくはこうやりたい」、「わたしはこう考える」といった児童が試行したことなど、学習過程での様子とあわせて行うようになった。
- ・児童が持っているイメージは、本人に聞いてみないと分からないことが多いので、児童に自分の思いを語らせたり、対話をしたりすることを大切に行うようになった。
- ・児童の思いを共有して、その思いを作品に表現する喜びを味わわせるようになった。
- ・普段何気なく見ているものも、意識的にみると新しい発見があることがわかり、その視点を持たせることが大切だということに気付いた。
- ・凶工嫌いや苦手意識を持たせないように心がけるようになった。
- ・教師自身も楽しいと思うことを伝えていきたいと考えるようになった。

3 【児童の意識について】

- ・授業の途中で「こんなところを工夫したよ」、「ここをこうしたいんだけど、困っている」、「わたしならこうしてみる」など、自分なりの考えを持って活動するようになった。
- ・友だちの作品のよさや工夫を自分の作品に取り入れたりしながら、互いにイメージを広げ、実現しようとする姿が見られるようになった。
- ・特に新しい題材の授業では、より関心を持ち、楽しんで活動するようになった。
- ・題材の材料集めなど、準備を積極的に行うようになってきた。

研 究 実 践 発 表 会

公開授業指導案

研究主題

豊かな感性・つくりだす喜び・確かな学び

～形や色の特徴をとらえ、自らのイメージを表現する児童の育成～

13:50～14:35

学年	題 材 名	指導者	場所
2年	「まどをひらいて～まどから こんにちは～」	桐山 和美	2年教室
6年	「願いや思いを形や色に・・・・・・・・」	岡島 克典	6年教室

おわりに

本校では、児童一人一人が感性を働かせながら、つくりだす喜びを味わい、造形的な創造活動の基礎的な能力を育成することをめざし、授業研究を通して指導方法の工夫改善に取り組んできました。色や形の特徴をとらえ、自らのイメージを造形表現することで、自分の意図を形に変えて相手に伝える。また、作品を鑑賞することで他者の様々な考え方を知る。児童が、こころとからだを通していろいろな気づきや学びができる授業をめざして研究に取り組んできました。

本日は、「自分のイメージをもつこと」、「ゴール（作品の仕上がり）は児童が自分で決めること」などを大切にしている視点で、授業をご覧いただけたらと思います。そしてご参観いただいた方々のご意見ご感想を糧に、来年度の府小研図画工作部研究大会への新たな一歩を歩み出そうと考えています。

後になりましたが、研究推進にご指導ご助言いただきました京都教育大学教授 村田利裕先生、京都教育大学非常勤講師 蘆田照代先生、京都府総合教育センター北部研修所研究主事兼指導主事 高橋淳夫先生、京田辺市教育委員会、その他にもご支援いただきました多くの先生、関係の皆様感謝し、お礼申し上げます。

平成24年2月2日

教頭 小川 比呂志

研究同人

平成23年度

岡本新一	小川比呂志	佐々摩利	桐山和美
谷口欣穂	塩田照美	上村弘子	岡島克典
山口知加子	南村奈津美		

平成22年度

中村一雄	福田あけみ	鷲見 篤	中谷人美
------	-------	------	------

平成21年度

貞 昌宏	谷口美穂	平沢 崇	汐見さつき
------	------	------	-------